

防風墻の研究

農林省農事試験場九州支場 理學博士 鈴木清太郎

颱風の際の暴風は勢強烈で巨木大樹さへ倒壊される上費用が

(21)

かゝるから普通の構造では役立たない。で特別な考案が必要である。その一案として縄で造つた大網が推奨される。然るに簡単な方法で扇風機で風を起し実験すると既に網目1・5糎位で風速が僅か1割減にしか過ぎない。一尺二尺の網目を以つてしては何の効果もないのはこの実験でわかるだらう。次に風洞を使用して10秒米まで風速を出す実験をした。此の時の防風障は樹木の枝を並列したもので、結果は高速度になると幾分風速の減少が大になる傾向が生じた。そして樹枝が生木のまゝの場合が防風効果が大きい。この事は多少防風林の優秀なることを示すものであるが、これは模型実験であつて、本當は實際の自然状態において実験観測する必要がある。